

## 令和7年度学校評価アンケート集計結果について

## 1. 概要

調査は全校生徒（138人）を対象に、独自のアンケートを作成し、行った。アンケート結果は、個別に集計し統計処理を行った（平成25年度より継続して実施）。

## 2. アンケート結果

- ・学年間の比較では、3年生が全体的に高い得点となり、進路・特活・人間関係の点数が高かった。
- ・満足度の年度間比較では、コロナ禍以降回復していた点数が、昨年度を下回り令和5年度と同じ点数となった。コース間では、例年と同様に普通コースよりスポーツコースの満足度が高い傾向が見られたが、普通コースの数値は昨年度から向上した。
- ・現3年生は学年を経るごとに点数が上昇した。一方、2年生は全項目で昨年度を下回ってしまった。例年、現3年生のように点数を少しずつ上昇される学年が多い中、現2年生は過去にも例の少ない傾向を示した。
- ・CS分析の結果より人間関係は例年通り重要かつ満足度が高い傾向があるが、今年度に関しては、重要度の低い学年や満足度の低い学年があった。進路に関しては、学年が上がるごとにまた、授業については重要度も満足度が高かった。進路の重要度は学年に関係なく高く、満足度は学年が上がるにつれて高くなった。普通コースの進路の重要度のみが著しく低かった。普通コースとスポーツコース共に授業の重要度及び満足度が高い傾向がみられた。
- ・教職員の自己評価は昨年度同様低水準であり、今年度は得点率が7割を超えた項目がなかった。

自己評価)

※評価についてはAを最高として、A～Eの5段階評価で行った。

項目	評価	総 評
学校運営	C	令和4年度以降力を入れている、いじめ早期発見及び組織の見直しに関して、引き続き力を入れて組織作りを行ったことや、早期発見・対応を行うことができたこと、生徒指導案件が検証したことは評価できる。一方で、教職員の自己評価が低水準のまま進んでいることや生徒の満足度が低下の方向に転換してしまったことは、原因の解明や対応を進めていかなければならない。よって、昨年度より評価を一段下げた。
生活指導	B	時代に即した指導方法の導入を進め、生徒の実情に合わせた指導を行うことができている。現在在籍している生徒に合わせた指導を行うことができている。その結果、問題事案の早期発見と防止を実現することができ、生徒指導案件も減少したことから、評価を一段上げた。

進路指導	A	令和7年度の卒業生も自己の希望する進路実現を果たすことができた。総合型選抜を導入する学校が増えたことによる入試制度多様化に対応し、個々に合わせたきめ細かい指導ができた。その結果、3年生については、全員が進路を決定できたことは評価できる。また、昨年度課題とした1, 2年生の指導についても一部を改善し、全体的に生徒の満足度を上げることができたことから、評価をAとした。ただし、生徒の求める進路指導を調査し、指導の中に取り入れるという取り組みは結果的に行うことができなかったため、次年度の課題としたい。
教科指導	A	ここ数年、生徒の満足度に対して重要度が高まっている授業に関して、生徒から高い評価を得ることができた。このことから評価をAとした。しかし、授業を大切に努力をしようとする生徒が増加傾向にある反面、意欲が低く定期試験で合格点が取れなかったり、提出物を期日までに提出できなかったりする生徒が一定数おり、その差を埋めていくことが今後の課題となる。また、教員の自己評価と生徒の授業評価を一致させるなど、授業力向上の取り組みについて、進展できなかったことも課題として挙げられる。
特別活動 ・ 課外活動 指導	A	今年度も各行事や取り組みを滞りなく実施することができた上、生徒からも高い満足度を得ることができた。生徒が主体的に学ぶ機会を提供することができ、それぞれの取り組みを発展させることができたことを評価した。
総合評価	B	前年度に引き続き、計画に沿った教育活動を行うことができたことや、主体的な学びの場の提供やいじめ対応等の重点課題に関しても一定の成果を上げることができた。一方で、教職員の自己評価が低水準になっていることに対する具体的な対応を行うことができなかったことや、生徒の満足度が下がってしまったこととその原因の解析ができていなかったことを鑑みて、評価を据え置いた。